

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.10.19-25

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

49:23 ダマスコについて。「ハマテとアルパデは恥を見た。悪い知らせを聞いたからだ。彼らは海のように震えおののいて恐れ、静まることもできない。

49:24 ダマスコは弱り、恐怖に捕われ、身を巡らして逃げた。産婦のような苦しみと苦痛に捕えられて。

49:25 いったい、どうして、栄誉の町、わたしの喜びの都は捨てられたのか。

49:26 それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、断ち滅ぼされる。主の御告げ。

49:27 わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。その火はベン・ハダデの宮殿をなめ尽くす。」

49:28 バビロンの王ネブカデレザルが打ったケダルとハツオルの王国について。主はこう仰せられる。「さあ、ケダルへ攻め上り、東の人々を荒らせ。

49:29 その天幕と羊の群れは奪われ、その幕屋もそのすべての器も、らくだも、運び去られる。人々は彼らに向かって『恐れが回りにある。』と叫ぶ。

49:30 ハツオルの住民よ。逃げよ。遠くへのがれよ。深く潜め。主の御告げ。バビロンの王ネブカデレザルは、あなたがたに対してはかりごとをめぐらし、あなたがたに対してたくらみを設けているからだ。

49:31 さあ、安心して住んでいるのんきな国に攻め上れ。主の御告げ。そこにはとびらもなく、かんぬきもなく、その民は孤立して住んでいる。

49:32 彼らのらくだは獲物に、その家畜の群

れは分捕り物になる。わたしは、こめかみを刈り上げている者たちを四方に吹き散らし、彼らに災難を各方面から来させる。主の御告げ。

49:33 ハツオルはとこしえまでも荒れ果てて、ジャッカルに住みかとなり、そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」

49:34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった主のことは。

49:35 万軍の主はこう仰せられる。「見よ。わたしはエラムの力の源であるその弓を砕く。

49:36 わたしは天の四隅から、四方の風をエラムに来させ、彼らをこの四方の風で吹き散らし、エラムの散らされた者がはいらぬ国はないようにする。

49:37 わたしは、エラムを敵の前におのかせ、そのいのちをねらう者たちの前におのかせ、彼らの上にわざわいを下し、わたしの燃える怒りをその上に下す。主の御告げ。わたしは、彼らのうしろに剣を送って、彼らを絶ち滅ぼす。

49:38 わたしはエラムにわたしの王座を置き、王や首長たちをそこから滅ぼす。主の御告げ。

49:39 しかし、終わりの日になると、わたしはエラムの捕われ人を帰らせる。主の御告げ。」

ダマスコ、ケダル、エラムの滅亡について預言されています。神様のご計画の中にある滅亡ではありますが、そこには滅亡に至る必然もあるので、

「いったい、どうして…」とありますが、そこに要因があります。彼らは滅亡などあり得ないと

思っていたのです。ケダルは牧羊によって豊かであったし、ハツオルは「弓」による武器備えに自信があったのです。これらによって、だいたいふと思っていたのですが、それは逆に神に頼らない慢心になっていたのです。

まさに私たちへの警告でもあります。自分はいよいよふだだったはずなのになぜ…とならいうちに、神様に頼り、その御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 水曜

エレミヤ



50:11 わたしの相続地を略奪する者たち。あなたがたは楽しみ、おどろいて喜び、穀物をつつ雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにいななくても、

50:12 あなたがたの母はいたく恥を見、あなたがたを産んだ者ははずかしめを受けた。見よ。彼女は国々のうちの最後の者、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。

50:13 主の怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化する。バビロンのあたりを通り過ぎる者はみな、色を失い、そのすべての打ち傷を見てあざける。

50:14 すべて弓を張る者よ。バビロンの回りに陣ぞなえをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女は主に罪を犯したのだから。

50:15 その回りに、ときをあげよ。彼女は降伏した。その柱は倒れ、その城壁はこわれた。これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。彼女がしたとおりに、これにせよ。

50:16 種を蒔く者や、刈り入れの時にかまを取る者を、バビロンから切り取れ。しいたげる者の剣を避けて、人はおのおの自分の民に帰り、自分の国へ逃げて行く。」

50:17 イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリヤの王がこれを食らったが、今度はついに、バビロンの王ネブカデレザルがその骨まで食らった。

50:18 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「見よ。わたしはアッシリヤの王を罰したように、バビロンの王とその国を罰する。

50:19 わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、

エフライムの山とギルアデで、その願いは満たされる。

50:20 その日、その時、主の御告げ。主イスラエルの咎は見つけようとしても、それはなく、ユダの罪も見つけることはできない。わたしが残す者の罪を、わたしが赦すからだ。」

エジプトをも打ち負かしたバビロニアが滅びるとは想像し難いことでした。そこからイスラエルが救われるなどは夢のまた夢であって、想像するだけ絶望感に襲われるようなことです。しかし、主はその現実の中から、みわざを成してくださる方です。

シリアのクロス王はバビロン市中を流れるユーフラテス川を他の水路に引き、干上がった川を通して攻め入ったのです。考えられないことが起きるのもまた世であり、人生です。

主はそのような出来事をも、あらかじめ知っておられ、それらを用いて、私たちに回復と勝利を与えてくださることのできる方です。この世の権力者や通説よりも、主注視していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



50:21 「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、彼らを聖絶せよ。主の御告げ。すべて、わたしがあなたに命じたとおりに、行なえ。」

50:22 「国中には戦いの声、大いなる破滅。

50:23 万国を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ。どうして国々の恐怖となったのか。

50:24 バビロンよ。わたしがおまえにわなをかけ、おまえは捕えられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられてつかまえられた。おまえが主に争いをしかけたからだ。

50:25 主はその倉を開いて、その憤りの武器を持ち出された。それは、カルデヤ人の国で、万軍の神、主の、される仕事があるからだ。

50:26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。

50:27 その雄牛をみな滅ぼせ。ほふり場に下らせよ。ああ。哀れな彼ら。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」

50:28 聞け。バビロンの国からののがれて来た者が、シオンで、私たちの神、主の、復讐のこと、その宮の復讐のことを告げ知らせている。

50:29 射手を呼び集めてバビロンを攻め、弓を張る者はみな、これを囲んで陣を敷き、ひとりものがすな。そのしわざに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。

50:30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士もみな、断ち滅ぼされる。主の御告げ。」

50:31 高ぶる者よ。見よ。わたしはあなたを攻める。万軍の神、主の御告げ。あなたの日、わたしがあなたを罰する時が来たからだ。

50:32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町に火をつける。火はそのまわりのものをすべて焼き尽くす。」

黙示録においては、神に敵対するこの世の勢力をバビロンと呼んでいます。バビロンはそのような象徴でもありますので、その滅亡を詳しく預言されているのだと思われます。

「おまえが主に争いをしかけた」と書かれています。その根底にあるのは「高ぶる者」であるということです。この世の問題点は、そのまま人間の問題点ですが、それは神なしで生きられるという高ぶりです。自然科学にしても、神なしで高等生物が存在しておりそれが解明できるという高ぶりがあります。社会学にしても神なしで社会が良くなるという高慢、人文科学にしても神なしで解明できるという高慢があると言わざるを得ません。神が創造された世界なのに、神を計算に入れなくて、解明、解決、発展できるというのは人間の高慢でしょう。バビロンの滅亡を思うとき、人間はあくまでも造られたものに過ぎないのだということに気づく必要があります。

神に対する、この世の高慢なあり方に影響されていないか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



51:1 主はこう仰せられる。「見よ。わたしはバビロンとその住民に対し、破壊する者の霊を奮い立たせ、

51:2 他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その国を滅ぼす。彼らは、わざわいの日に、四方からこれを攻める。」

51:3 射手には弓を張らせ、よろいを着けてこれを襲わせよ。そこの若い男を惜しむことなく、その全軍を聖絶せよ。

51:4 刺し殺された者たちが、カルデヤ人の国に倒れ、突き刺された者たちが、そのちまたに倒れる。

51:5 しかし、イスラエルもユダも、その神、万軍の主から、決して見捨てられない。彼らの国は、イスラエルの聖なる方にそむいた罪に満ちていたが、

51:6 バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これこそ、主の復讐の時、報いを主が返される。

51:7 バビロンは主の御手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲んで、酔いしれた。

51:8 たちまち、バビロンは倒れて砕かれた。このために泣きわめけ。その痛みのために乳香を取れ。あるいはいやされるかもしれない。

51:9 私たちは、バビロンをいやそうとしたのに、それはいやされなかった。私たちはこれを見捨てて、おのおの自分の国へ帰ろう。バビロンへの罰は、天に達し、大空まで上ったからだ。

51:10 主は、私たちの正義の主張を明らかにされた。来たれ。私たちはシオンで、私たち

の神、主のみわざを語ろう。

51:11 矢をとぎ、丸い小盾を取れ。主はメディヤ人の王たちの霊を奮い立たせられた。主の御思いは、バビロンを滅ぼすこと。それは主の復讐、その宮のための復讐である。

51:12 バビロンの城壁に向かって旗を揚げよ。見張りを強くし、番兵を立てよ。伏兵を備えよ。主ははかりごとを立て、バビロンの住民について語られたことを実行されたからだ。

51:13 大水のほとりに住む財宝豊かな者よ。あなたの最期、あなたの断ち滅ぼされる時が来た。

51:14 万軍の主はご自分をさして誓って言われた。「必ず、わたしはばったのような大群の人をあなたに満たす。彼らはあなたに向かって叫び声をあげる。」

歴史は権力の交代であり、その節目はほとんどが戦いでした。この世の力とはそのようなものであり、自己実現の先にあるのは、神を計算に入れない者同士の争いです。イスラエルも信仰者もそのような争いに巻き込まれるのですが、違いは「イスラエルもユダも、その神、万軍の主から、決して見捨てられない。」ということです。

ここに信仰者の平安があり、勝利があります。争いの影響がないというわけではなく、また連戦連勝というわけでもありません。むしろこれは無理ではないかという状況に置かれます。しかし、主がそのご計画のゆえに、私たちは守ってくださるのです。

言うまでもありませんが、それは私たちの勝手な自己実現のためでなく、神様のご計画です。その計画は全ての人を救いに招くためです。自分のためではなく、神の愛のために自分のことを二の次にできる人こそ、神様からの祝福に与れるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



51:15 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く建て、英知をもって天を張られた。

51:16 主が声を出すと、水のざわめきが天に起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のためにいなずまを造り、その倉から風を出される。

51:17 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中に息がないからだ。

51:18 それは、むなしいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。

51:19 ヤコブの分け前はこんなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主ご自身の部族。その御名は万軍の主である。

51:20 「あなたはわたしの鉄槌、戦いの道具だ。わたしはあなたを使って国々を砕き、あなたを使って諸王国を滅ぼす。

51:21 あなたを使って馬も騎手も砕き、あなたを使って戦車も御者も砕き、

51:22 あなたを使って男も女も砕き、あなたを使って年寄りも若い者も砕き、あなたを使って若い男も若い女も砕き、

51:23 あなたを使って牧者も群れも砕き、あなたを使って農夫もくびきを負う牛も砕き、あなたを使って総督や長官たちも砕く。

51:24 わたしはバビロンとカルデアの全住民に、彼らがシオンで行なったすべての悪のために、あなたがたの目の前で報復する。・・・主の御告げ。・・・

「世界を堅く建てる」のは主です。その主が世界の導き手なので、これほど確実なことはありません。そしてその主がバビロンを滅ぼすのですから、

ら、その存在はむなしいものとなるのは当然です。一方、その主が「ヤコブの分け前はこんなものではない。」というのですから、これほど心強いことはありません。

そのヤコブはなぜ主から守られるのかというと、それは選びの民だからです。これは救いのために選び分けられたクリスチャンの特権でもあります。私たちは主から選ばれたものなのです。選びとはそれほどに決定的なものです。

もちろん選ばれたからといって、自分勝手な不従順が認められるわけではありません。イスラエルも神様からの懲らしめがありました。私たちも同じです。しかし、最後は敵であるバビロニアの「戦車も御者も砕き」、主はイスラエルを救ってくださるのです。

私たちも、主イエスの十字架によって罪赦されているということは、選ばれているのだと確信して、主に頼り歩いてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

